

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成28年12月27日

施設名	香北青少年の家	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1. 施設の概要

指定管理者名	株式会社香北ふるさとみらい	指定期間	平成27年4月1日～32年3月31日
施設所在地	香美市香北町吉野1300		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><平成27年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プチ!!親子避難生活体験 ・めざせ!!やなせたかし先生 ・集まれ!!未来の麵職人 ・いきいき合衆国で遊ぼう ・日帰りだよ!親子忍者大会体験 ・子どもフェスティバル忍者大会 ・青年リーダー研修 など 		
施設内容	<p>青少年教育施設として、「自然とのふれあい体験、共同生活体験及び体験的な学習活動などを通じて心身ともに健全な青少年の育成を図る」という設置目的に基づき運営している。</p> <p>構造:本館 鉄筋コンクリート2階 延べ1,002.65㎡ 別館 鉄筋コンクリート平屋 延べ295㎡ 研修棟 鉄筋平屋 延べ300.16㎡</p> <p>施設概要:</p> <p>研修室 3室(定員20名,80名,120名) 宿泊室 定員127名 浴室3室 野外炊飯場 3箇所 定員300名 ランニングコース 1コース 1.7km オリエンテーリングコース 1コース 10km ウォークラリーコース 2コース 5km</p>		
職員体制	職員:所長1名 所長代理1名 事務員1名 指導員4名 調理員4名 合計:11名		

2. 収支の状況

		H26年度(決算)	H27年度(決算)	H28年度(予算)
収入	県支出金	36,969,000	38,473,000	38,747,000
	事業費収入	708,928	858,045	880,000
	収入計	37,677,928	39,331,045	39,627,000
支出	事業費	1,359,141	1,722,431	1,635,000
	管理運営費	10,498,716	10,382,463	10,158,000
	人件費	23,029,133	24,312,758	24,899,000
	消費税	2,790,938	2,913,393	2,935,000
	支出計	37,677,928	39,331,045	39,627,000

使用料収入	2,123,640	2,130,620	2,191,000
-------	-----------	-----------	-----------

3. 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
宿泊者数	6,382	7,252	6,869	6,736	6,672	6,782

(2) 利用団体数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
団体数	136	154	160	166	165	156

(3) 利用者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
人数	14,119	16,194	15,027	14,627	14,931	14,980

4. 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで8月と1月に行っていた各学校や団体へのチラシ配布を、27年度は4回に分けるなど応募しやすい期間に配慮し、新たな利用促進へと繋げている。 ○南海地震に対する取組を兼ねた「親子避難生活体験」では、集団生活の中でルールを守る大切さや、限られた条件の中で仲間とともに創意工夫をする能力を向上させるためのプログラムを開発。また、地域色を生かした「めざせ、やなせたかし先生」では、著名な漫画家を講師に招き、マンガを通じて子どもたちの表現力や発想力を高め感動や活力を喚起させるなど、県民が「気になること」「興味を惹かれること」を意識した新規事業の開発に取り組んでいる。 ○主催事業では地域や関連団体と協力して取り組み、また小学校に出向いて出張事業を行うなど、地域や学校との連携を密にし、事業の充実に努めている。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣の観光施設との連携割引企画を開始した。 ○宿泊学習の際に利用者が「何を目的とし」「何を求めているのか」を把握し、指導の役割分担を検討し、より良い宿泊学習とするために取り組んでいる。 ○「交流分析士講座」や「アングーマネジメント講座」などに積極的に参加し、職員の資質・指導力の向上に努めるとともに、新規事業開発への足がかりとしている。 ○利用者の多い長期の休み期間中は、休館日(月曜日)も、開館し利用者のニーズに応えている。
③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○セルフモニタリングシートを活用し、自己点検を行い業務改善に取り組んでいる。 ○「親子避難生活体験」を実施したことで知ることが出来た、実際に必要な防災グッズ(ランタン・ヘッドライト等)の充実を行った。 ○外部から廃材の提供を受け、それらを再利用して木工プログラムを実施するなど、経費削減に努めている。 ○学生ボランティアを「青年リーダー研修」で育成し、主催事業に積極的に活用している。
④利用実績	<p>○平成26年度と比較して、宿泊者数: 64名減少、利用団体数: 1団体減少となっている。利用者数: 304名増加。</p>

⑤収支の状況	<p>○宿泊者数・利用団体数が若干減少したものの、一般の利用者増により、使用料収入は約7,000円の増収となった。 管理代行料は、予算額を全額執行した。 平成27年度決算額(県支出金):38,473,000円</p>
総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>○施設の目標がしっかりと認識されており、高い経営意識を持って取り組んでいる。アンケート評価も高く、施設の強みを活かした事業展開ができています。 ○古い施設だが清掃が行き届き、きめ細かい気配りのある管理運営ができています。 ○様々な方法によるニーズの把握や、施設職員・ボランティアスタッフへの研修を充実させるなど、サービスの更なる向上に向けた取組を進めている。 ○新規プログラムでは、職員全員が役割を持ち、シミュレーションを繰り返し行うことで新たな「気づき」を発見するなど、一丸となって事業の開発に真摯に取り組んでいる。また、常に新しいものを取り入れる姿勢や、参加者に問題意識や気づきを与える体験という視点でプログラムの開発に取り組んでいることは大いに評価できる。 ○近隣に住宅地がないことから、学校の音楽部などへの利用誘致のほか、地元猟友会と連携してシカの駆除を兼ねた新規事業の展開を期待する。</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの